

日本橋 にっぽんばし ● Nippon-bashi
〈道頓堀川〉

日本橋は、紀州街道が道頓堀川を渡る所に架けられ、江戸時代には幕府が管理する重要な公儀橋に指定されており、紀州藩や岸和田藩の参勤交代の道筋としても使われていた。ちなみに、元和元(1615)年に完成したといわれる道頓堀川の開削者は、成安道頓・安井九兵衛(道卜)らとされ、その功績を讃えて松平忠明が「道頓堀」と名付けたと伝わる。

日本橋筋は当時、長町と呼ばれ道の両側には旅籠が軒を並べ、多くの人で賑わっていた。それは、旅人の陸の起点と京や金比羅詣りの船着場の水陸両方の交通の要所であり、また近くに幕府の高札場が設けられていたことによる。

明治10(1877)年頃に木橋から鉄橋化され、後の同34(1901)年に架け換えられた。さらに同45(1912)年、市電第三期事業で堺筋が拡張され電車を通すため鋼橋になった。

現在の橋は、昭和44(1969)年の地下鉄建設に伴って架け換えられたが、旧橋の面影を残そうという地元の声で、旧橋の親柱が保存され、日本橋の由来碑も置かれている。